

第3回「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」結果発表

衛星放送事業者を対象とした市場の予測に関するアンケート
自社チャンネル、マーケットの展望には楽観論が多数

多チャンネル放送研究所(所長:林尚樹)は、第3回目となる「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」を実施しました。これは、同研究所が(社)衛星放送協会の正会員社の各チャンネルを対象に、多チャンネル放送マーケットの現状と先行き見通しについて調査するものです。

本調査では、『現状』、『1年後』、デジタル放送への完全移行が予定されている『2011年』という3つの時点について、会員各社が多チャンネルマーケットの動向をどのように捉えているかを聞いています。この結果、衛星放送事業者の加入者数、視聴率収入についての見通しは、楽観派、悲観派に2極化する一方で、広告、事業収入についての期待感は強まっていることが明らかになりました。

多チャンネル放送研究所では、今後も同調査を定期的実施し、会員各社の多チャンネル放送のマーケット観を立体的に捉えていく方針です。

■調査結果の概要

1. 自社チャンネルの加入者は「増加傾向」が基調

自社のチャンネルの加入者状況について、『現状』を問う設問では、「増加傾向」(57.3%)という答えが半数以上を占めた。ただし、「減少傾向」も3割弱おり、厳しい見方をしている事業者も少なくない。

この構成は、『1年後』でもさほど変化はない。「増加」と「減少」が減り、「横ばい」がやや増えているが、それぞれが全体に占める割合については『現状』とほぼ同様である。

『2011年時点』になると、「減少」(14.7%)が10ポイント程度減って、「横ばい」(22.7%)が6ポイント以上増えるという結果になった。「増加傾向」(54.7%)は他の時点と比べてもほとんどかわらなかった。

2. 多チャンネル放送全体の加入者は2011年に増加

次に多チャンネル放送市場全体の加入者動向について各事業者の予測を尋ねた。『現状』では、「増加傾向」(46.7%)、「横ばい」(36.0%)、「減少傾向」(14.7%)の順番になった。『1年後』『2011年時点』でもほぼ同様の傾向がみられる。ただし、『2011年時点』では、「大幅増」「増加」と答えた事業者が5割を越えている。前述の自社チャンネルの加入者動向では、『現状』『1年後』で「増加傾向」に次いで「減少傾向」が多かったのに比べると、市場全体の直近の動向に関しては、自社チャンネルよりもやや楽観的な見方をしているともいえる。

3. 自社の視聴料収入の全体的に楽観的、しかし直近では減収を予測する事業者も多い

自社チャンネルの視聴料収入の動向では、『現状』『1年後』『2011年時点』を通して「増加傾向」が最も多く、半数を上回った。収入増を予測している事業者が多い。半面、「減少傾向」と答えた事業

者も『現状』では約3割、『1年後』では4分の1を占めしていることにも留意されたい。

「横ばい」は『現状』から『2011年時点』にかけて増加する傾向にあり、『2011年時点』では「減少傾向」を上回って、第2位につけている。

4. 2011年時点の広告収入に高い期待感

自社チャンネルの広告収入の予測では、『現状』、『1年後』ともに「横ばい」が最も多くの回答を集めた。これに「増加傾向」が続いている。『2011年時点』になると「横ばい」が大幅に下がり36.0%に。逆に「増加傾向」は44.0%まで増え、1位になる。「減少」も時間がたつほど、減っていく傾向があった。

5. その他事業収入は1年後には増加

自社チャンネルのその他事業収入については、『現状』、『1年後』では「横ばい」が最も多く、半数を占める。これに「増加傾向」が続いた。ただし、「増加傾向」は、その後、次第に増えていく傾向がみられ、『2011年時点』では「横ばい」を越えて、最も多くなった。

■調査の概要について

- 1.調査時期 2009年6月
- 2.調査対象 衛星放送協会正会員社のCS有料チャンネル(111チャンネル)
- 3.調査方法 郵送法
- 4.回答回収数 75チャンネル
- 5.回答回収率 67.6%

■調査結果詳細

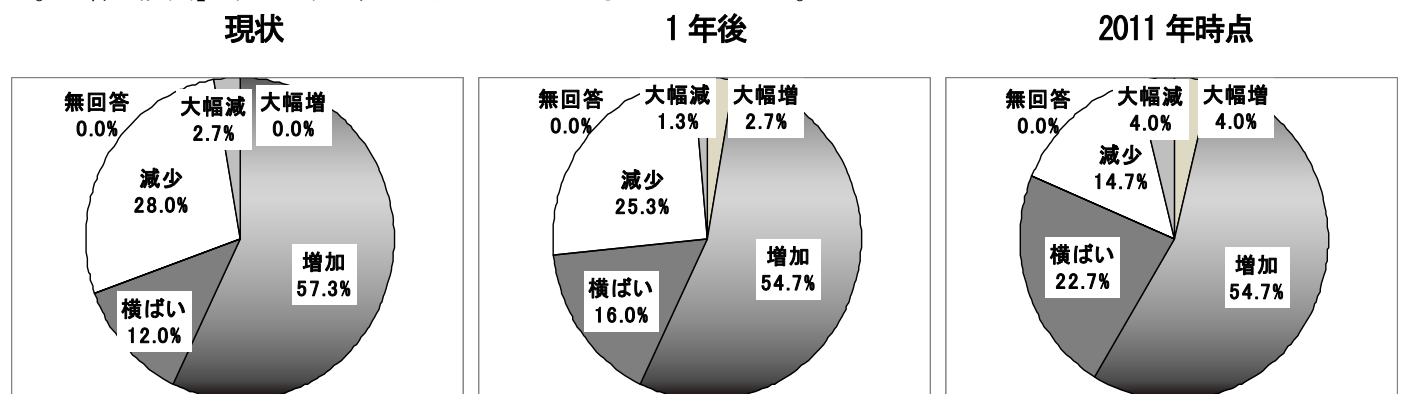
自社チャンネルの加入者動向

1. 全体動向

自社のチャンネルの加入者状況の動向について、『現状』では「増加傾向」(57.3%)、「減少傾向」(28.0%)、「横ばい」(12.0%)と続く構成になった。『1年後』では「増加」と「減少」が減って「横ばい」がやや増えるものの、それぞれが全体の構成は『現状』とほぼ同じになっている。

このように、基本的には加入者増とみる事業者が多い。ただし、減少という回答も『現状』では3割、『1年後』では4分の1存在しており、厳しい見方をしている事業者もいることが分かる。

『2011年時点』では、「減少」(14.7%)が10ポイント程度減って、「横ばい」(22.7%)が6ポイント以上増えた。「増加傾向」(54.7%)は他の時点と比べてもかわりがない。

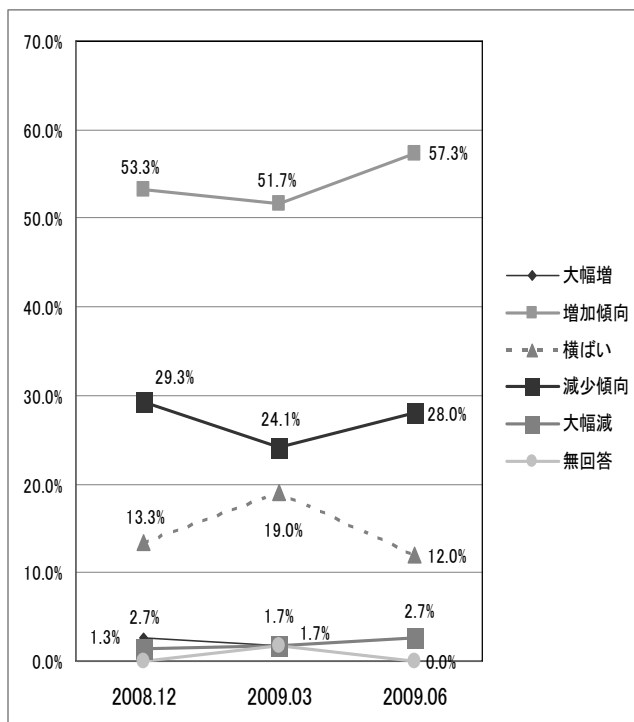


2. 全体動向の推移

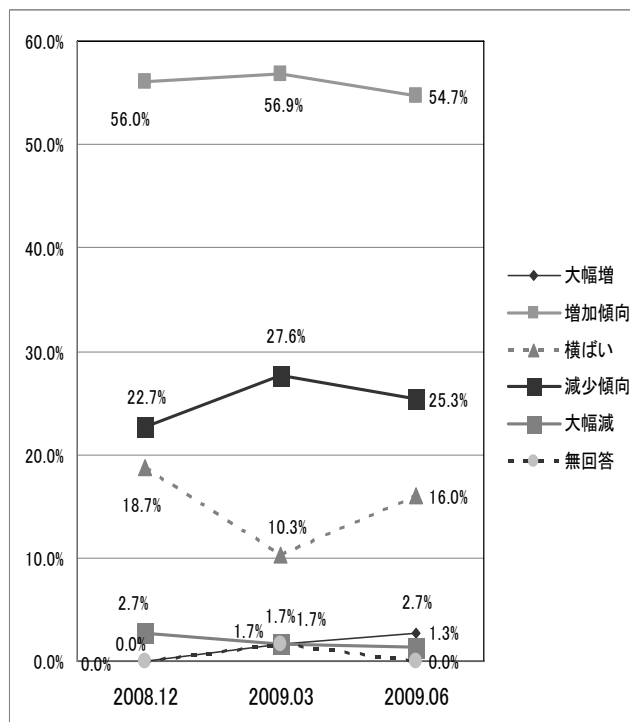
自社チャンネルの加入者の全体動向を、前回調査の結果と比較した。前回調査に比べると、『現状』では「増

加傾向」と「減少傾向」がやや増え、「横ばい」が7ポイントほど減った。『1年後』では、「増加」「減少」が微減、「横ばい」が6ポイントほど増えた。『2011年時点』では、「減少」が8ポイントほど減った半面、「増加」が5ポイントほど増え、11年に向けて自社の加入者について楽観的な見方をする事業者が増えていることがわかった。

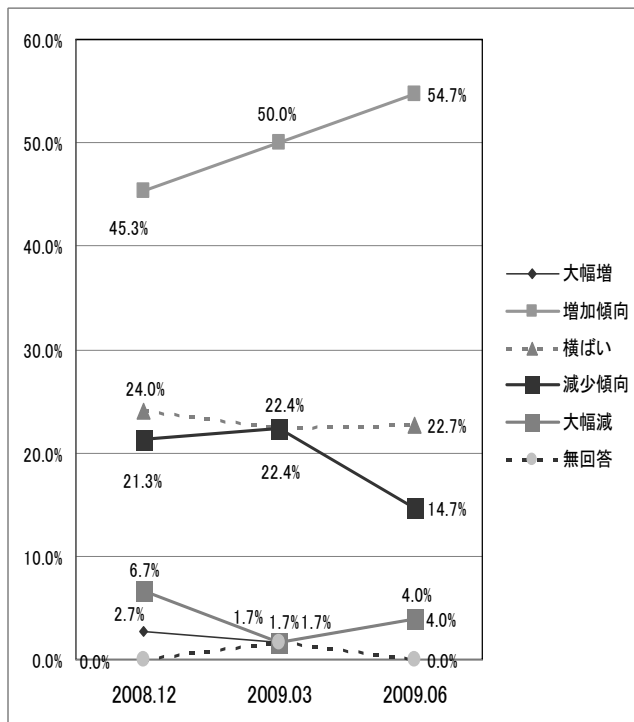
自社加入者数予測（現在）—前回調査との比較



自社加入者数予測（1年後）—前回調査との比較



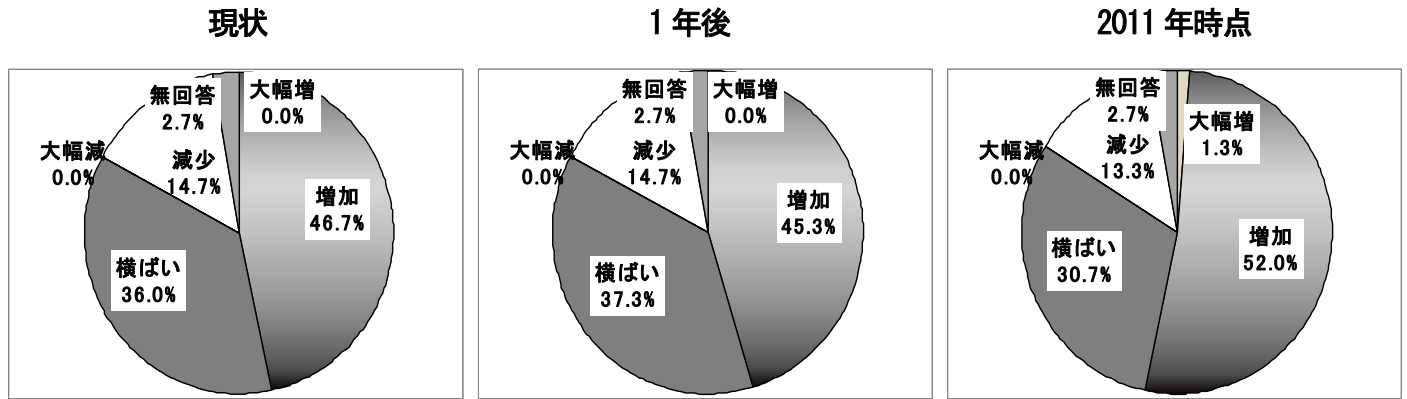
自社加入者数予測（2011年）—前回調査との比較



B. 多チャンネル放送全体の加入者動向

1. 全体動向

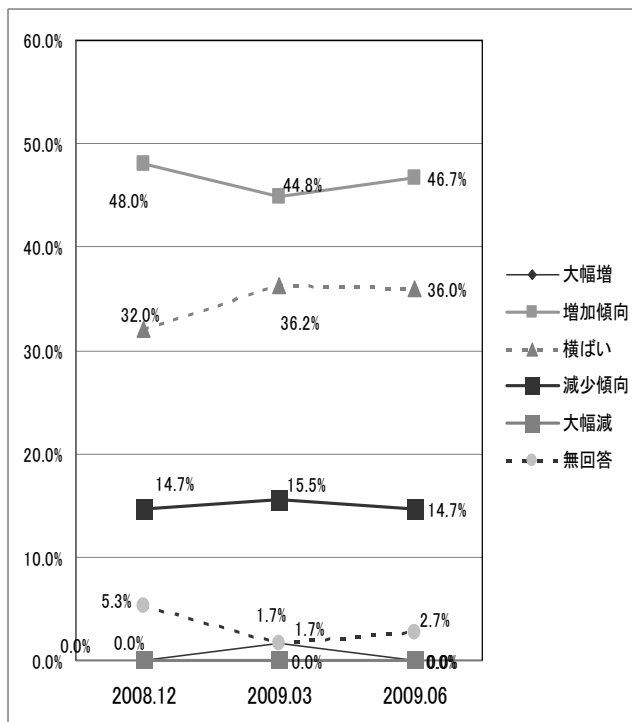
次に多チャンネル放送市場全体の加入者動向について各事業者の予測を尋ねた。『現状』では、回答数は「増加傾向」(46.7%)、「横ばい」(36.0%)、「減少傾向」(14.7%)の順番になった。『1年後』『2011年時点』でもほぼ同様の傾向がみられる。また、『2011年時点』では、「大幅増」「増加」と答えた事業者が5割を越えた。前述の自社チャンネルの加入者動向の『現状』『1年後』では、「増加傾向」に次いで「減少傾向」が多かったのに比べると、市場全体の直近の動向に関しては、やや楽観的な見方をしているともいえる。



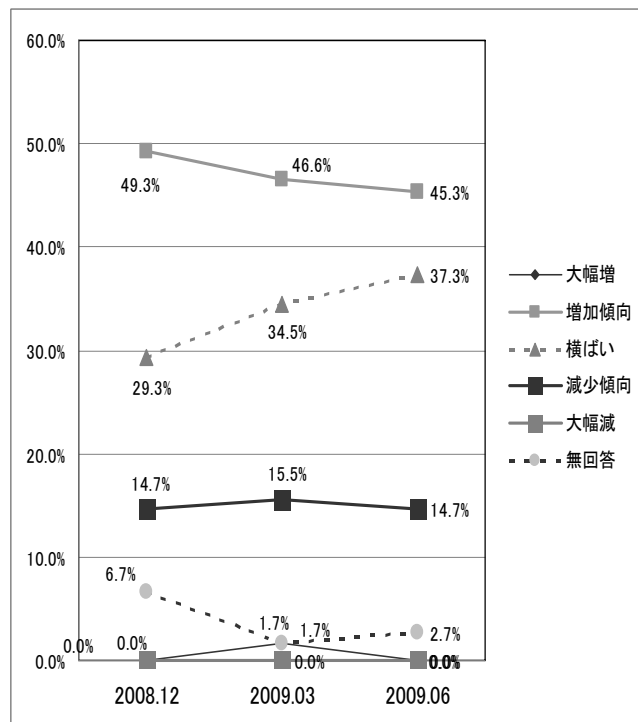
2. 多チャンネル放送全体について動向の推移

多チャンネル放送全体の加入者予測の推移をみると、『現状』は、前回調査とほとんど変わらなかった。『1年後』では数字に大きな変化はないが、「増加」がやや減り、「横ばい」が増えるという傾向は前々回から続いている。『11年時点』では、「増加」との見方が主流。加えて、前回調査に比べ「減少」が7ポイント程度減少し、「横ばい」が増えていることから、ここでも全体的にやや楽観的な見方をする事業者が増えたことが分かる。

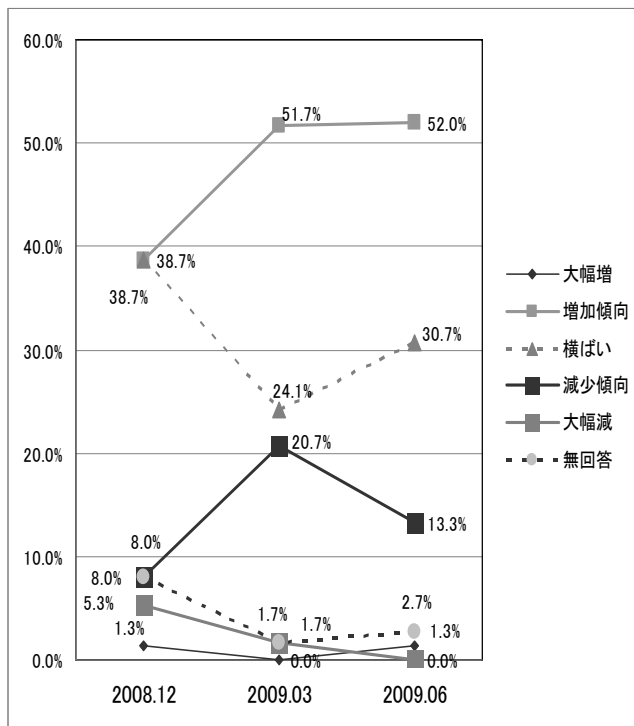
全体加入者数予測(現在)―前回調査との比較



全体加入者数予測(1年後)―前回調査との比較



全体加入者数予測（2011年）—前回調査との比較

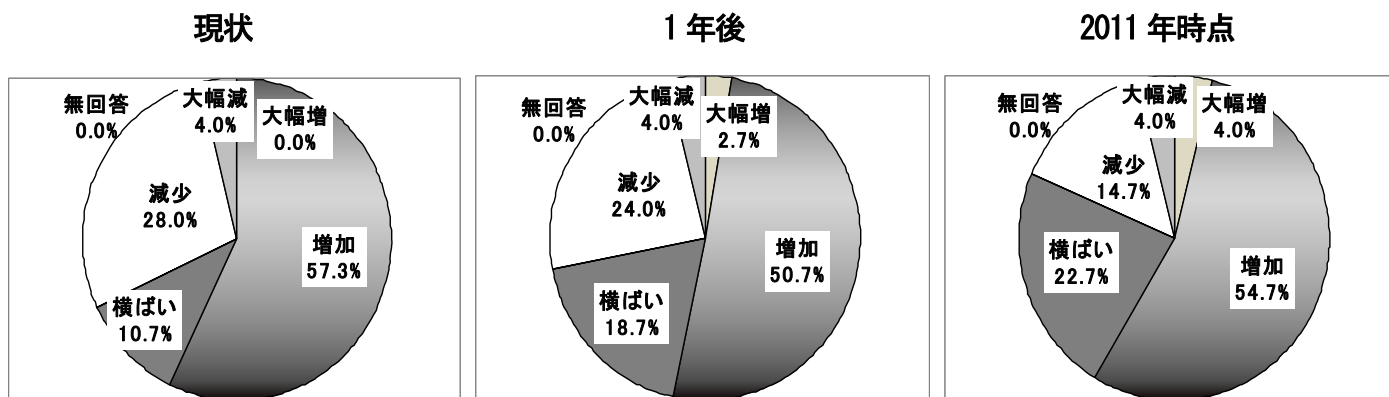


[2]視聴料収入

1. 全体動向

自社チャンネルの視聴料収入の全体の動向では、『現状』、『1年後』、『2011年時点』を通して「増加傾向」が最も多く、半数を上回った。収入増を予測している事業者が多いことがわかる。一方で「減少傾向」が『現状』では3割近く、『1年後』でも4分の1を占めていることにも留意されたい。

「横ばい」は『現状』から『2011年時点』にかけて、次第に増加する傾向にあり、『2011年時点』では「減少傾向」を上回って第2位につけている。

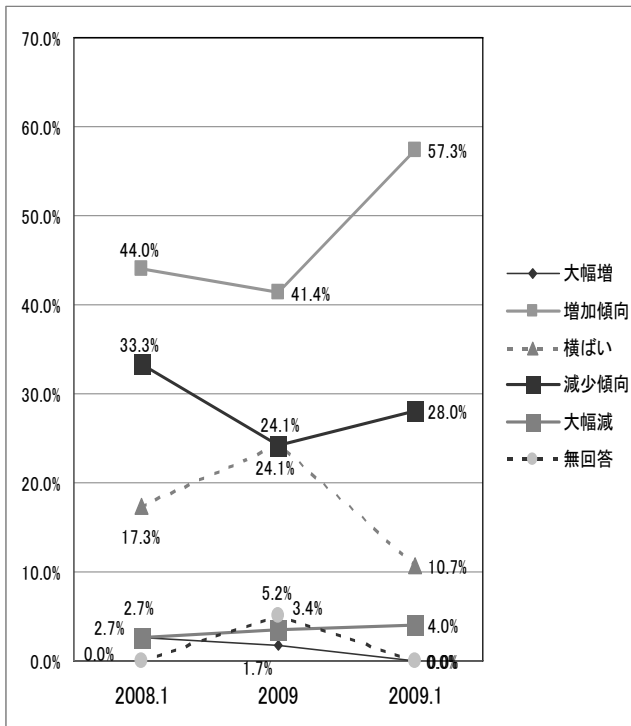


2. 自社チャンネル視聴料予測の推移

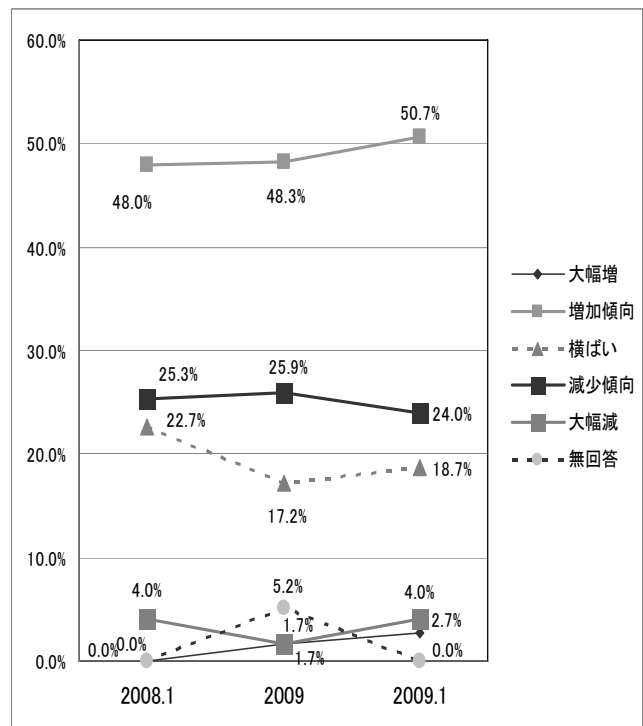
『現状』では、「増加」は16ポイント程度急増、半面「横ばい」が13ポイントほど減った。『1年後』では、前回調査と比べて大きな変化はなかった。ただし、『2011年』については、前回調査に引き続き「増加」が10ポイント増、一方「減少」が12ポイント減少している。11年に向けて収入面で楽観的な見方をしている

る事業者が多いことがわかった。

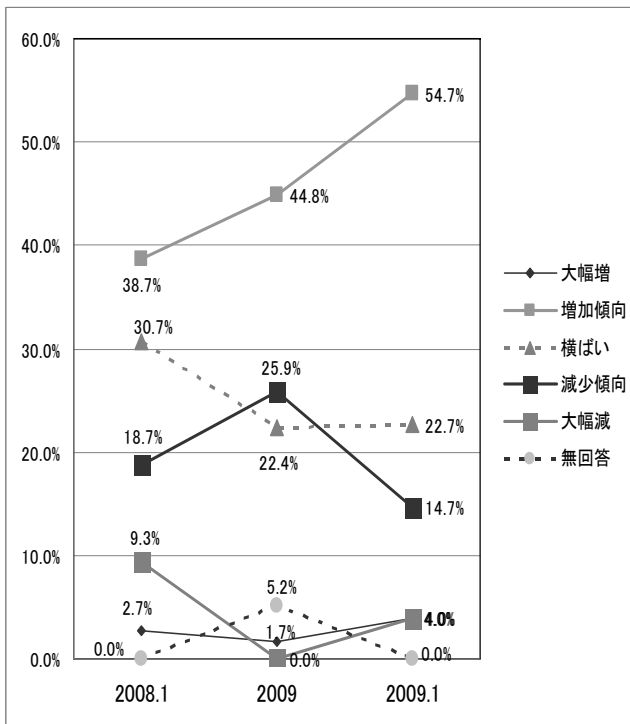
自社収入予測（現在）—前回調査との比較



自社収入予測（1年後）—前回調査との比較



自社収入予測（2011年）—前回調査との比較

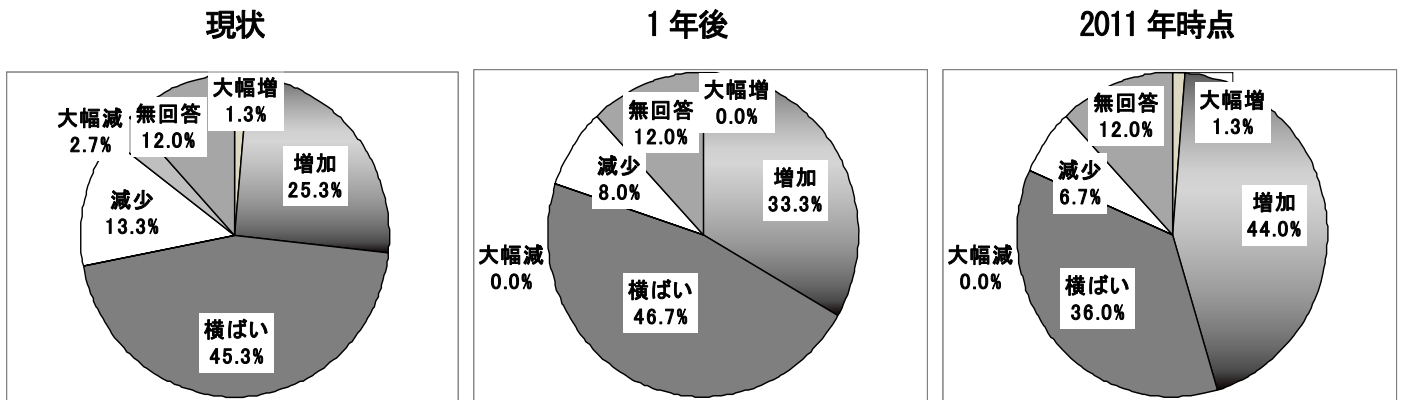


[3] 広告収入 自社チャンネル

1. 広告収入の動向

自社チャンネルの広告収入の予測では、『現状』、『1年後』ともに「横ばい」という回答が最も多かった。

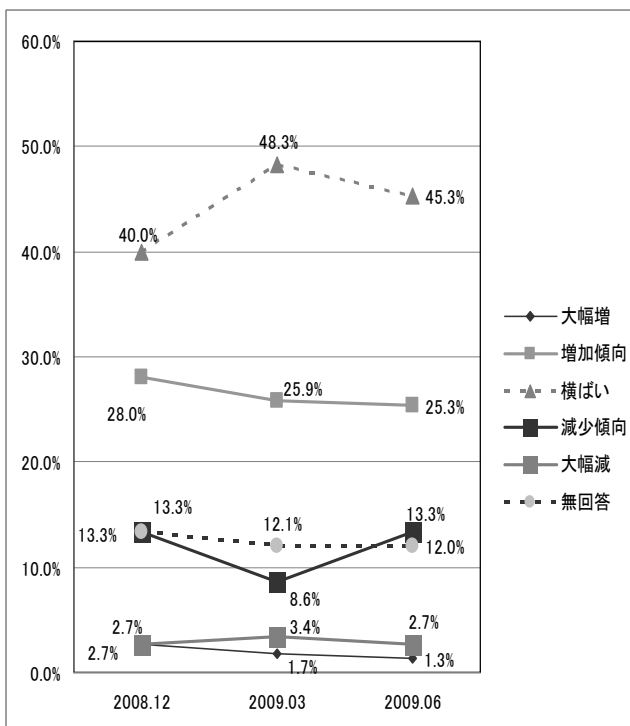
これに「増加傾向」が続いている。『2011年時点』になると「横ばい」が36.0%と大幅に下がる。逆に「増加傾向」が44.0%まで増え、最も多くなった。「減少」も時間がたつほど、減っていく傾向が読み取れる。



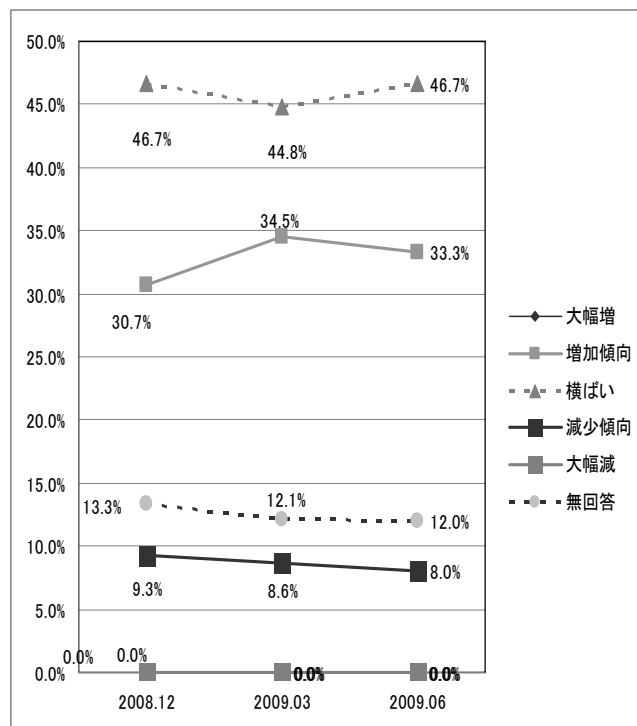
2. 広告収入予測の推移

広告収入に関する回答結果を前回調査と比べると、『現状』『1年後』ともに、大きな変化はない。しかし『2011年時点』は、前回よりも「減少」が減り、「横ばい」が12ポイントほど急増した。『11年時点』では、これまで厳しい見方が若干和らいだともみることが出来る。

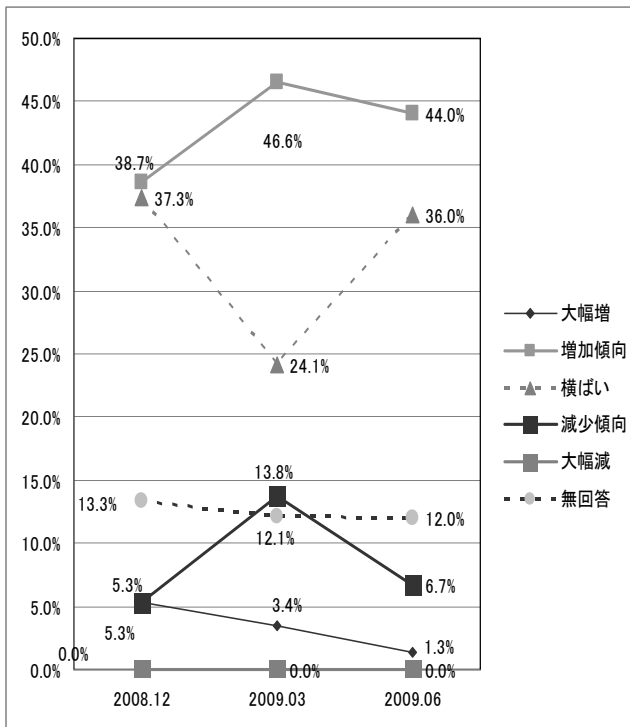
広告収入予測(現在) — 前回調査との比較



広告収入予測(1年後) — 前回調査との比較



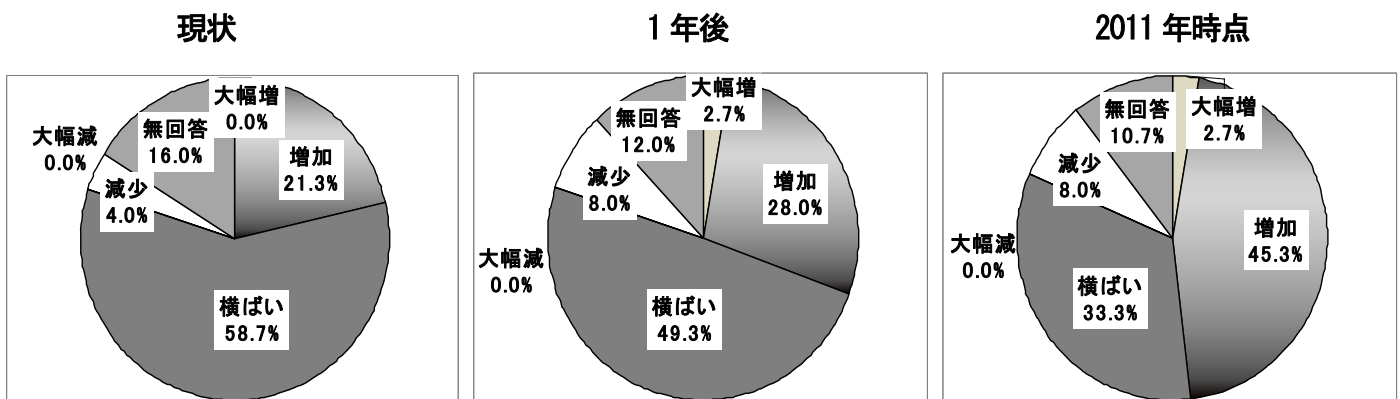
広告収入予測(2011年) —前回調査との比較



[4]その他事業収入 自社チャンネル

1. その他事業収入

自社チャンネルのその他事業収入においては、『現状』『1年後』では「横ばい」が最も多く、半数を占めた(それぞれ 58.7%、49.3%)。これに「増加傾向」が続く。「増加傾向」は、11年に向けて次第に増えていく傾向がみられ、『2011年時点』では「横ばい」を越えて、最も多くの回答を集めた。ただし、本項目でも「無回答」が多く注意が必要である。

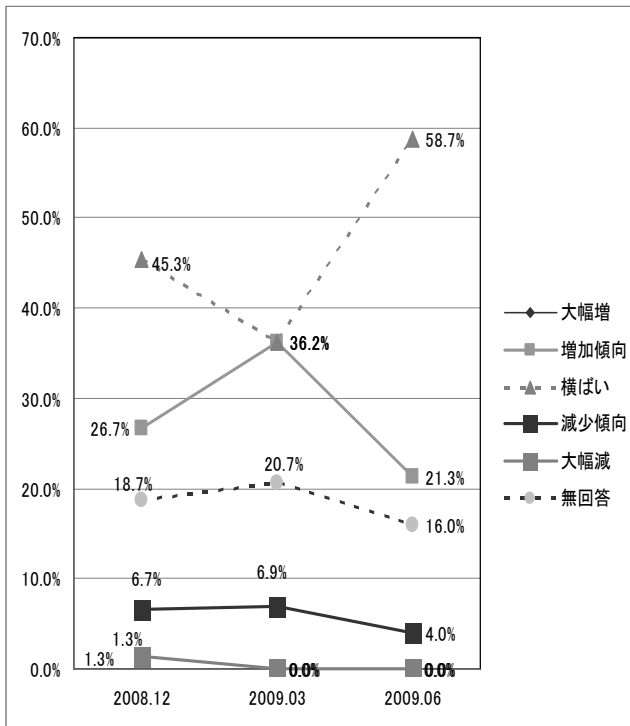


2. その他事業収入予測の推移

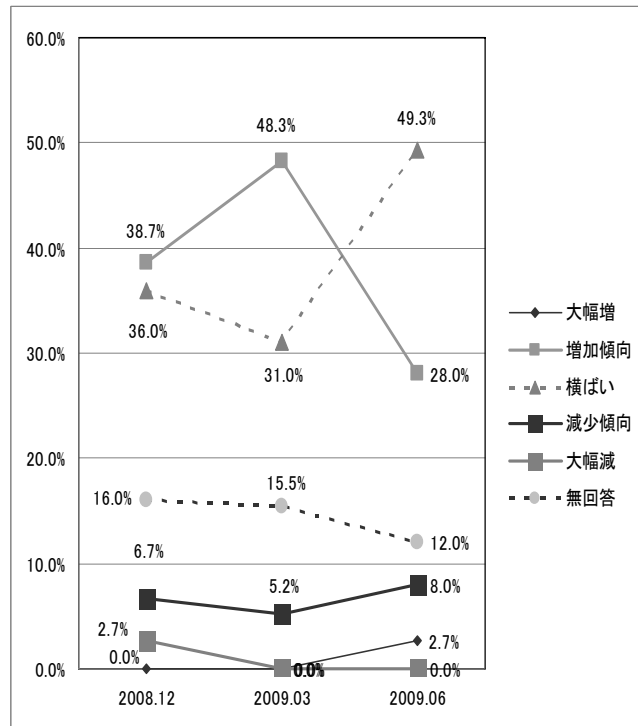
前回調査に比べて『現状』では「横ばい」のポイントが大幅に増え、入れ替わるように「増加」がポイントを減らした。『1年後』でも同様の傾向がみられる。『2011年時点』については、前回調査と比べて大きな

変化は見られなかった。

その他収入予測(現在) —前回調査との比較



その他収入予測(1年後) —前回調査との比較



その他収入予測(2011年) —前回調査との比較

